

Docket No.: 56937-026

PATENT



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

re Application of

Takashi KOBAYASHI, et al.

Serial No.:

Group Art Unit:

Filed: March 22, 2001

Examiner:

For: INFORMATION PROCESSING APPARATUS AND FOR-USE-ON-MAIN-
APPARATUS-BODY IDENTIFIER PRODUCTION METHOD THEREFOR

**CLAIM OF PRIORITY AND
TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT**

Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 35 U.S.C. 119, Applicants hereby claim the priority of:

Japanese Patent Application No. 2000-347815,
filed November 15, 2000

cited in the Declaration of the present application. A certified copy is submitted herewith.

Respectfully submitted,

MCDERMOTT, WILL & EMERY


Michael E. Fogarty
Registration No. 36,139

600 13th Street, N.W.
Washington, DC 20005-3096
(202) 756-8000 MEF:dtb
Date: March 22, 2001
Facsimile: (202) 756-8087

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

66937-026
Kobayashi, et al.
March 24, 2001

McDermott, Will & Emery

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年11月15日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-347815

出 願 人
Applicant (s):

松下電器産業株式会社

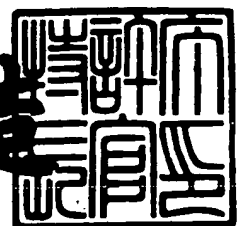


CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 2月23日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3011086

【書類名】 特許願

【整理番号】 2122020030

【提出日】 平成12年11月15日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 12/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 小林 敬

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 岡田 浩幸

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 佐竹 浩一

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100097445

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩橋 文雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100103355

【弁理士】

【氏名又は名称】 坂口 智康

【選任した代理人】

【識別番号】 100109667

【弁理士】

【氏名又は名称】 内藤 浩樹

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011305

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9809938

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 装着されているネットワークカードを認識するネットワークカード認識手段と、前記ネットワークカード認識手段が認識するネットワークカードの取り外し可能性を記憶する取り外し可能性記憶手段と、前記認識するネットワークカード認識手段が認識したネットワークカードに対応する前記取り外し可能性記憶手段に記憶された取り外し可能性の内、最も取り外し可能性の小さいネットワークカードの識別子に基づきネットワーク上での本体識別子を生成する本体識別子生成手段を有する情報処理装置。

【請求項 2】 取り外し可能性がネットワークカードの機構的取り外し易さまたは使用頻度である請求項 1 記載の情報処理装置。

【請求項 3】 装着されているネットワークカードを認識するネットワークカード認識手順と、前記ネットワークカード認識手順で認識するネットワークカードの取り外し可能性を記憶する取り外し可能性記憶手順と、前記認識するネットワークカード認識手順で認識したネットワークカードに対応する前記取り外し可能性記憶手順で記憶した取り外し可能性の内、最も取り外し可能性の小さいネットワークカードの識別子に基づきネットワーク上での本体識別子を生成する本体識別子生成手順から成る情報処理装置の個体識別子生成方法。

【請求項 4】 取り外し可能性がネットワークカードの機構的取り外し易さまたは使用頻度である請求項 3 記載の情報処理装置の個体識別子生成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワーク上での情報処理装置の識別方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ネットワーク上における情報処理装置の識別方法としては、情報処理装置に装着されているネットワークカード毎に異なる識別子に基づいて生成した情

報処理装置自体の識別子を用いて識別する方法を採っていた。

【 0 0 0 3 】

また、近年、情報処理装置の高機能化に伴いネットワークカードを複数枚装着できるものが実用化され、状況によって複数枚のネットワークカードを抜き差ししてネットワークカードの構成を変えて使用されるようになってきた。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の情報処理装置ではどのネットワークカードの識別子に基づいて情報処理装置自体の識別子を生成するかの基準がないため、ネットワークカードの追加または削除によって情報処理装置の識別子が増加する可能性があり、情報処理装置がネットワーク上で唯一の識別子で識別できなくなるといった問題があった。

【 0 0 0 5 】

本発明はネットワークカードの追加または削除に伴う情報処理装置の識別子の増減を最小限にすることを目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

この課題を解決するために本発明は、取り外される可能性の低いネットワークカードの識別子を優先して情報処理装置の識別子を生成することで、情報処理装置の識別子の増減を最小限にすることができる。

【 0 0 0 7 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図 1 ～ 図 3 を用いて説明する。

【 0 0 0 8 】

（実施の形態 1）

図 1 は、本実施の形態における情報処理装置のシステム構成図である。

【 0 0 0 9 】

図 1 において、11 は情報処理装置全体を制御する中央演算装置（CPU）、13 は取り外し難いネットワークカード甲、14 はネットワークカード甲 13 に

比べて取り外し易いネットワークカード乙、12はネットワークカード甲13およびネットワークカード乙14の存在を認識し、ネットワークカード甲13がネットワークカード乙14より取り外し難いことが予め設定されており、情報処理装置の識別子をネットワークカード甲13の識別子から生成するBIOSである。

【0010】

図2は、本実施の形態における情報処理装置の分解図である。

【0011】

(A)は情報処理装置の裏面を示しており、21は裏キャビネット、22は裏キャビネット21の一部を塞ぐ裏蓋である。

【0012】

(B)は裏キャビネット21から裏蓋22を外したところを示しており、24は裏蓋22を外したところから取り外せるネットワークカード乙である。

【0013】

(C)はさらに裏キャビネット21を外したところを示しており、23は裏蓋22を外しただけでは取り外せないネットワークカード甲である。

【0014】

図3は、本実施の形態における情報処理装置の識別子の生成処理を示すフローチャートである。

【0015】

まず、S301で情報処理装置の電源がオンされると、S302で取り外し難いものとして予めBIOS12に設定されているネットワークカード甲23が装着されているかチェックし、装着されていればS306に移ってネットワークカード甲23の識別子を使用して情報処理装置の識別子を生成し、装着されていない場合はS303に移る。

【0016】

S303でネットワークカード甲23の次に取り外し易いとして予めBIOS12に設定されているネットワークカード乙24が装着されているかチェックし、装着されていればS305に移ってネットワークカード乙24の識別子を使用

して情報処理装置の識別子を生成し、装着されていなければ S 3 0 4 に移る。

【 0 0 1 7 】

S 3 0 4 ではネットワークカードが一切装着されていないことを認識して、情報処理装置の識別子を生成せずに処理を終了する。

【 0 0 1 8 】

なお、本発明の実施の形態ではネットワークカードの取り外される可能性の基準として機構的な取り外し易さ（例えば、分解の手順数、分解の所要時間、分解時に外さねばならないねじの数、分解時に抜かねばならないケーブル数など）を用いたが、各ネットワークカードの使用頻度など取り外される可能性に関するものであれば何を基準にしても良いことは言うまでもない。

【 0 0 1 9 】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明によれば、ネットワークカードの追加または削除に伴う情報処理装置の識別子の変化を最小限に留めることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態 1 における情報処理装置のシステム構成図

【図 2】

本発明の実施の形態 1 における情報処理装置の分解図

【図 3】

本発明の実施の形態 1 における情報処理装置の識別子の生成処理を示すフローチャート

【符号の説明】

1 1 CPU

1 2 BIOS

1 3、2 3 ネットワークカード甲

1 4、2 4 ネットワークカード乙

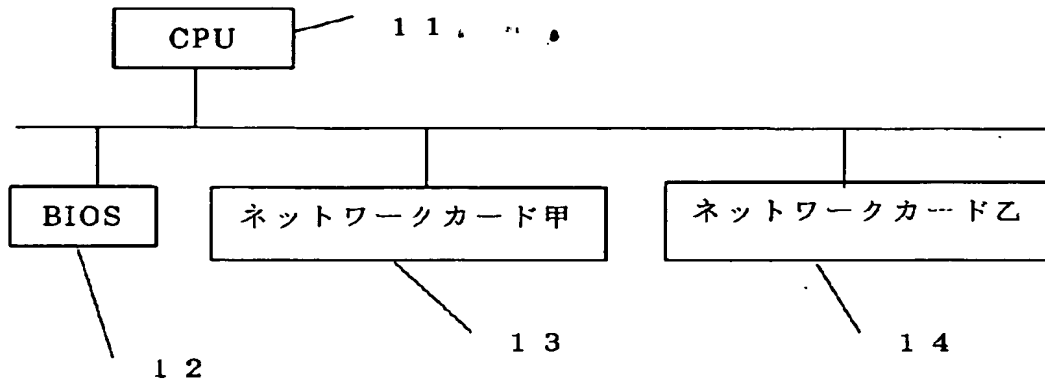
2 1 裏キャビネット

2 2 裏蓋

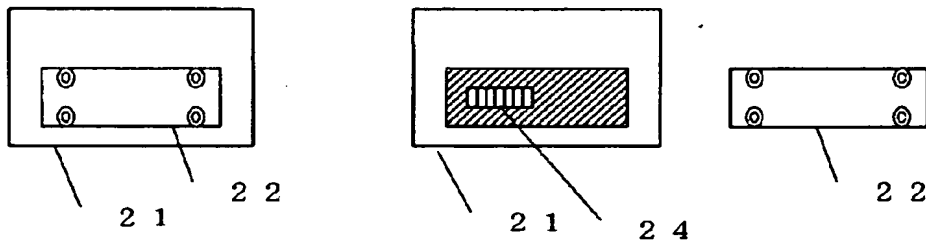
【書類名】

図面

【図 1】

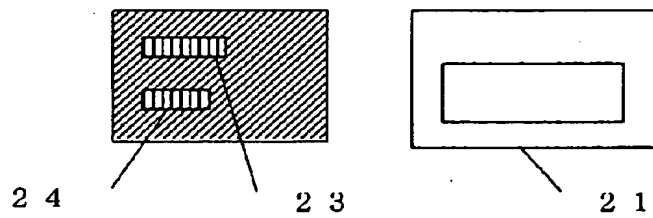


【図 2】



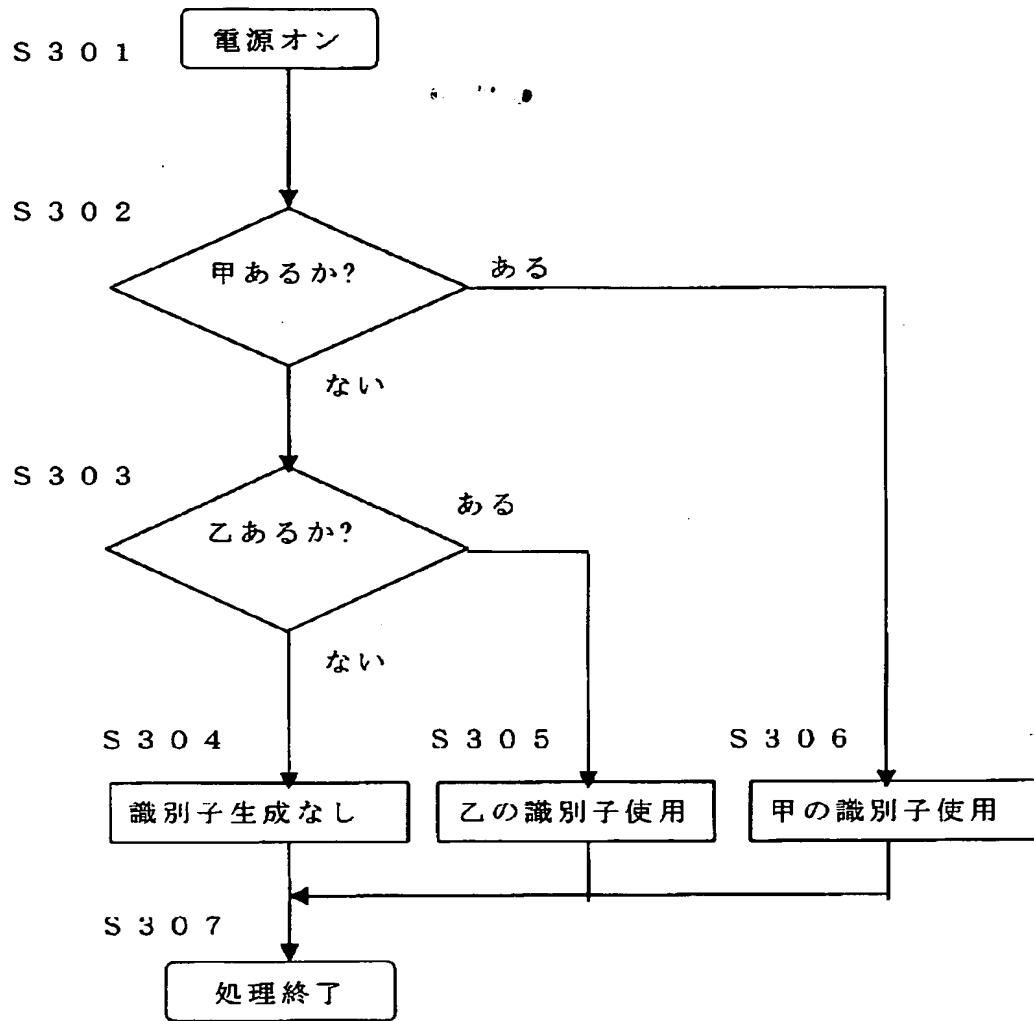
(A)

(B)



(C)

【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来の情報処理装置ではネットワークカードの追加または削除によって情報処理装置の識別子^{識別子}が変化^{変化する}する可能性があり、情報処理装置がネットワーク上で唯一の識別子で識別できなくなるといった問題があった。

【解決手段】 取り外される可能性の低いネットワークカードの識別子を優先して情報処理装置の識別子を生成することで、情報処理装置の識別子の変化を最小限にすることができる。

【選択図】 図 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日	1990年 8月28日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名	松下電器産業株式会社